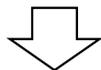


【第8期介護保険事業計画におけるサービス基盤整備方針について】

【県特養待機者調査】

R2. 4. 1 現在

要介護3以上 172人



在宅	病院	その他※
69人	40人	63人

【ケアマネアンケート】

Q：現在担当している方で、現状のサービスでは生活維持が困難な方はどの程度いますか？

生活維持困難者（在宅） 75人

Q：これらの方で、どんなサービスがあれば生活改善に繋がると思われますか？（複数回答あり）

特養	GH*	特定	SS*	小多機	定期巡回
30人	19人	14人	20人	11人	10人

など

※老人保健施設、介護付き有料老人ホームなど、*GH：認知症高齢者グループホーム、SS：ショートステイ

- ・特養待機者数は1つのバロメーターだが、**その全員が差し迫った状態とは限らない。**
- ・ケアマネの客観的視点で、どの程度差し迫った人がいるのかも調べた。双方の差を見ると、単純計算で**30人～70人程度の整備**が必要と思われる。

【在宅介護実態調査】（回答数490人）

- ・主たる介護者またはその家族が仕事を辞めた 28人
- ・働きながら介護の継続が難しい 14人

→居宅介護支援の利用者（≒在宅サービス利用者）が現在約1,000人程度と思われるため、

介護離職者（あるいはその予備軍）は**80人程度**と推測（上記の「ケアマネ調査による生活維持困難者」ともほぼ近似）

- ・しかし施設整備には時間がかかるため、実際の整備目標を定めるには**整備までの間の認定者数増加**もある程度見込む必要もある。（特に、9期（R6～R8）を見据えると、館地区の認定者数が急増する可能性がある。）

<現状>

特養	老健	GH	特定施設	（参考）	住宅型	サ高住
380床	120床	99床	273床		128床	190床

- ・従来近隣市に比べ高齢者人口あたりの施設整備率は高かったが、その差は縮まっている。
- ・現在市内の施設入居者に占める市民の割合は**4割程度、多く見積もっても半分**
- ・各圏域に**整備済みのグループホームは現在ほぼ満床**
- ・全国的には既存施設に空床が目立つ地域も多いが、本市の現況は極端に空床があるわけではない。

<具体的な整備方針>

【①施設・居住系サービス】

種別	床数	R 3	R 4	R 5	(R 6)	(R 7)	
地域密着型特養	29	選定	整備	完成			※完成はR 4中に前倒し可能性有 (うち市民26と想定)
広域型特養	80	選定	整備	完成			
GH	18	選定	整備	完成			※完成はR 4中に前倒し可能性有
地域密着型特定施設	29		選定	整備	完成		(うち市民20と想定)
広域型特定施設	60			選定	整備	完成	
合計	216			127	29	60	

・特養の待機者解消を主眼に置くのであれば、利用者が市民に限定される地域密着型事業所を主とすべき

→地域密着型特養とグループホームの整備を優先する。(狭小な土地で整備可能でもある)

- ・補完として、広域型特養も整備目標へ位置づける(広域型施設の整備は、同時にショートステイの整備効果あり)
- ・特定施設は整備が比較的整備が進んでいることから、第8期期間ではなく第9期期間の早期にサービス開始を目指す。
- ・老健の整備は今回は見送る(県南西部圏域(朝霞地区4市・東入間地区2市1町)で一定程度充足しているため)。
- ・広域型入居者の3分の1程度を本市民とみると、すべて整備が完了すると122床の効果
(地域密着型特養29、広域型特養26、GH18、地域密着型特定施設29、広域型特定施設20)

【②在宅系サービス】

種別	定員	R 3	R 4	R 5	(R 6)	(R 7)	
定期巡回*(1)	—	選定	整備	完成			※完成はR 4中に前倒し可能性有
小多機*(1)	29			選定	整備	完成	※完成はR 4中に前倒し可能性有
看多機*(1)	29	選定	整備	完成			

*定期巡回：定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小多機：小規模多機能型居宅介護、看多機：看護小規模多機能型居宅介護

・施設サービスに限定せず、定期巡回や小多機などの在宅サービスを活用すれば在宅生活が可能な場合も多く、バランス良い整備が必要。

・ケアマネ調査でも定期巡回の要望は高く、最優先する。(朝霞地区4市で事業所が存在しないのは現在本市のみ)